Vol.13　Xm7 コードの構造を確認してみる　～その 1～

では、vol.13、始めていきましょう。

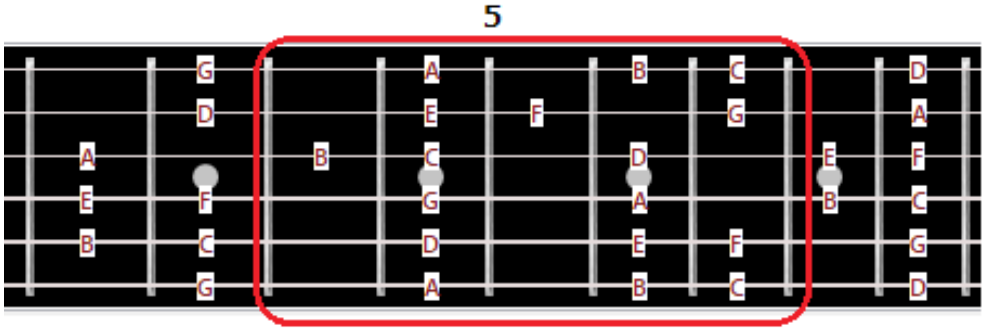
ここ 2 回ほどで、XM7 コードの基本を学んだので、次はマイナー・セブンス(Xm7)コードについて見ていきましょう。

実際にやる事としては前と同じです。トニックは A 音、コードとしては Am7 になりますね。

この場合、構成音は、A(root)、C(m3rd)、E(P5th)、G(m7th)になり、今回は基準にするスケールを A ナチュラルマイナー(A エオリアン)に設定します。

なので C メジャー(アイオニアン)スケールとリラティブな関係になり、構成音は同じ、と。

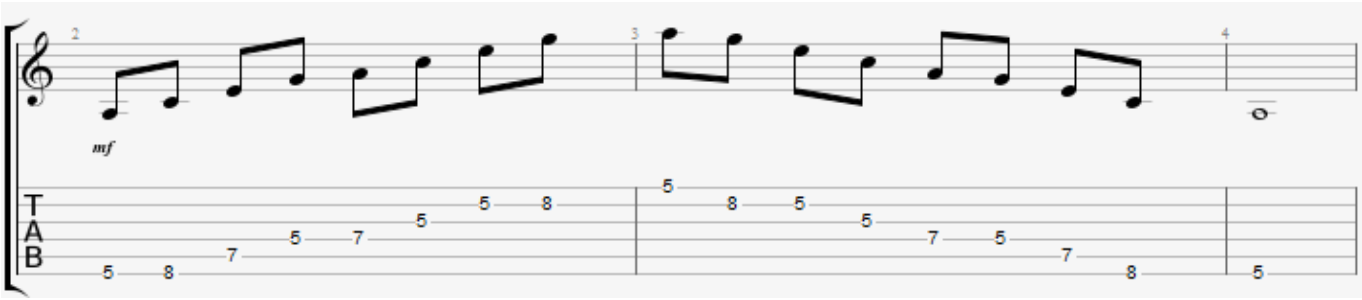
ポジションは、6 弦ルートのこの辺りを中心に弾いていきます。



ここをナチュラルマイナーと見ても、マイナーペンタとして見ても、どちらでも構いません。

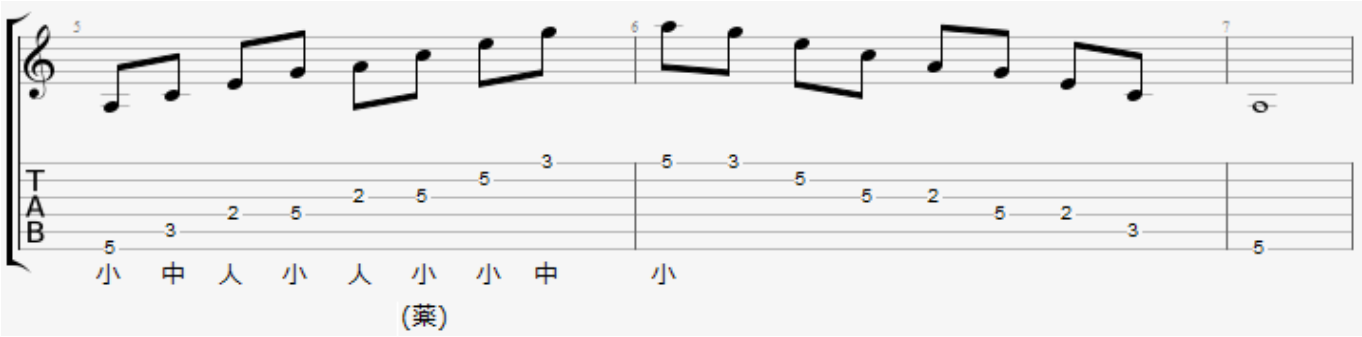
それでは譜例ですが、6 弦 5 フレットの A 音を基準に、ボディ側とヘッド側の両方に進むパターンを基本に見てみましょう。

譜例 1



譜例 2

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

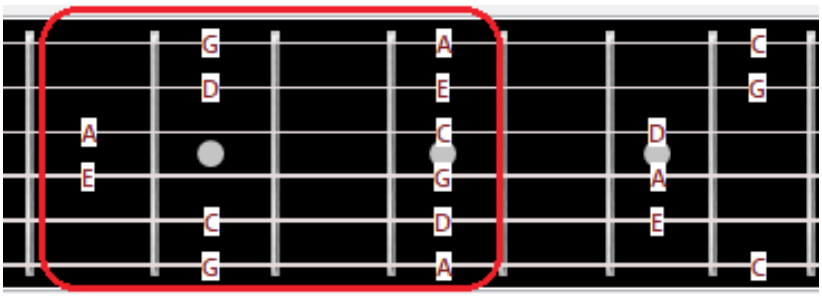


譜例 1 は基本中の基本となるアルペジオですが、譜例 2 は弾きにくいと感じるかも知れません。

ここは、個人的には、次回やる、5 弦ルートのポジションと合わせて考えているポジションです。

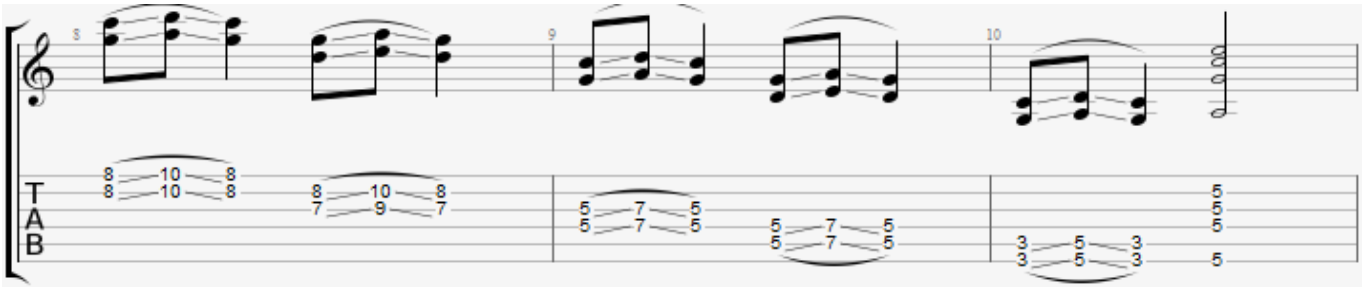
5 弦開放をルートにしたローコードの Am7 と一緒に見ておくと、6 弦ルートから見るよりも使いやすくなるでしょう。

後は、マイナーペンタのこのポジション内で動いているので、コード・トーンの配置として覚えておいても良いですね。



続いて、XM7 の時と同じ様な、ダブル・ストップ的なフレーズです。

譜例 3



この辺りの動きは、リードプレイの他に、バッキング時のフィルインにも使いやすいので、スライドやハンマリング、プリング等でポジション内を動けるようにしておくと、カラフルなフレーズが作れたりします。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

この譜例 3 は、Am7 コードの邪魔をしない音だけを選んでいるので、スケールポジション全体では、同じ様な動きを他にも作る事が出来ます。

場合によっては、あまり鳴らさない方が良い音もあるのですが、動き方自体は、色々研究しておいても良いですね。

最後に、今回も、前の XM7 の時も、基本のアルペジオとして出している譜例は、ルートから始まり、ルートに戻って終わっていますね。

実践では、これをこのまま弾いても良いのですが、例えば、アルペジオの途中の音から始めてみたり、リズムの変化や音の順番を入れ替えてみたりと、色々と工夫してみましょう。

他にも、スケール的な動きとアルペジオ的な動きを組み合わせるなど、様々なパターンが考えられます。

この様な、基本のものからちょっとした変化を付ける事によって、ユニークなプレイが生まれてきます。

普段のコピーでも、好きなアーティストのフレーズを分析してみるなどして、どんどんアイディアを取り入れていきましょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved